



春の消防訓練

- ・実施日：2022年3月9日(水)
 - ・避難訓練 10:00～10:30
開催場所：管理棟1階ラウンジ前
避難・誘導訓練参加人数：667名
 - ・消防訓練講演会 14:00～14:35
Zoom 参加人数：32名
- ※新型コロナウイルス感染防止対策（換気、消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンス）を徹底しております

 東京団地倉庫株式会社

消防訓練実施風景

・警備員 火災通報を統括防火管理者に報告



・火災発生時の放送実施



・警備員の119番通報



・テナント所長より避難者数の報告



大森消防署自衛消防担当の田代係長による消防訓練講演を Zoom にて実施しました。

当日の講演内容を一部抜粋し掲載します。

2 近年の倉庫火災事例

- 倉庫火災の発生状況（平成21年～30年）**延べ面積10,000㎡以上**

火災件数	118件
焼損床面積	84,563㎡（1件当たり 716㎡ ）
損害額	90億100万円（1件当たり 7,630万円 ）
その他	2件（1.7%）が全焼に至っており、5件（4.2%）が 覚知から鎮火までに24時間以上を要している。

延べ面積は10,000㎡以上の倉庫火災においては、全焼の割合は少ないものの、**1件当たりの焼損床面積は6倍**であり、**1件当たりの被害額も甚大**である。

3 倉庫火災対策

「大規模倉庫における火災の教訓」

- 教訓1 火災発見時は**直ちに適切な通報**
- 教訓2 **屋内消火栓設備**又は**屋外消火栓設備**を用いた**確実な初期消火**
- 教訓3 **従業員全員**が円滑に避難できることを確認する**避難訓練**

3 倉庫火災対策

教訓1 火災発見時は直ちに適切な通報

- 火災の発生場所や燃焼物などを具体的に想定した**ロールプレイング形式**の模擬的な通報訓練
- 火災発見時には**躊躇することなく直ちに適切な119番通報**



3 倉庫火災対策

教訓1 火災発見時は直ちに適切な通報



3 倉庫火災対策

教訓2 屋内消火栓設備又は屋外消火栓設備を用いた確実な初期消火

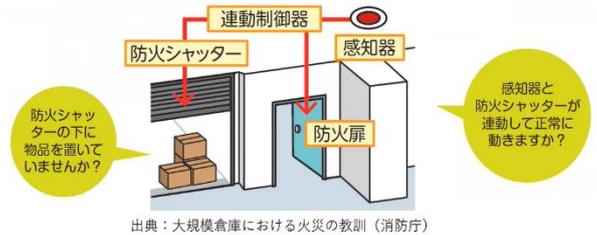
- 大量の段ボール等の可燃物がある場合、**消火器だけでは消火できない場合**がある。
- **屋内（外）消火栓設備は消火能力が高く初期消火に有効**
- 消防設備の点検とあわせて**実際に放水する訓練を実施を推奨**
- 屋内（外）消火栓設備の位置を確認、**平面図に場所を記入し、見えるところに貼付**



3 倉庫火災対策

教訓3 従業員全員が円滑に避難できることを確認する避難訓練

アドバイス 防火シャッターの下に物品を置かない
 感知器と防火シャッターが連動して正常に動くか確認



3 倉庫火災対策

まとめ

- 一般に、倉庫には大量の可燃物が存在し、**延焼拡大しやすい**
- 平素からの**火気や可燃物の管理**、迅速で適切な**初期消火の実施体制の確保**等が非常に重要
- 防火管理者が中心となって、自衛消防隊等も含めて**出火危険のある場所や初期消火が困難な場所等を事前に把握**し、必要な対策を講じることが重要

3 倉庫火災対策

さいごに

「大規模倉庫における火災の教訓」については、総務省消防庁のホームページ（URL:<https://www.fdma.go.jp/miission/prevention/prevention001.html>）にて、公開されていますので、是非ご確認ください。



東京消防庁公式アプリ

(下記のQRコードよりダウンロードできます)

○ 東京消防庁公式アプリについて



東京消防庁公式アプリ

ダウンロードはこちら!

